

操作手順


**送信機と受信機の設定**

- 経路探索を行いたい分電盤に、「送信機」の電源クリップを接続します。
  - 単相の場合(100Vまたは200V)
    - L1相とL2相または、L1(L2)相とN相に接続します。
  - 三相の場合(200V)
    - R、S、Tのいずれか2相に接続します。
- 電源スイッチを入れます。
- 受電点(キュービクル、配線盤等)の各遮断器の2次側フィーダーを「受信機」に接続している「クランプCT」でクランプし、経路探索信号を検出します。

**受信機の方法**

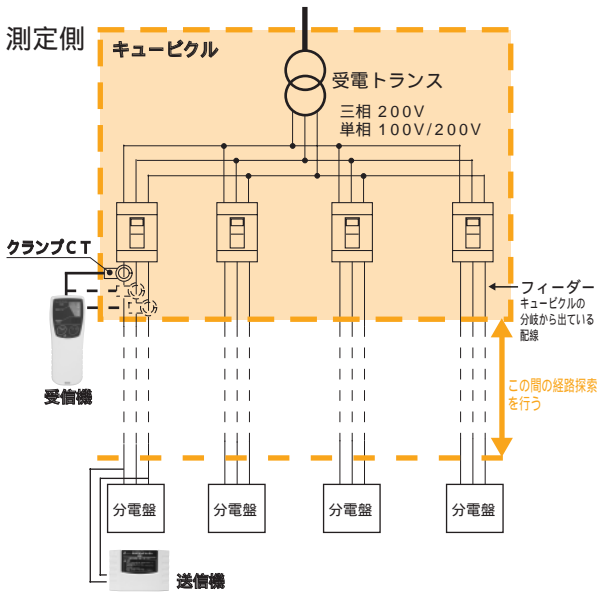
- 電源の投入
  - 赤ボタン(計測/電源)を2秒以上押し、LEDに周波数「50」が表示されます。
- 周波数の選択
  - 電源周波数が50Hzの地域で使用する場合は周波数「50」が表示されていることを確認します。
  - 電源周波数が60Hzの地域で使用する場合は、緑ボタンを押して、周波数「60」が表示されていることを確認します。
  - 緑ボタンを押すたびに、「50」「60」「50」「60」...を交互に表示します。

以上で、セット完了です。



測定方法

- 電源周波数を表示させた状態で、計測を行う1番目の電線を「クランプCT」でクランプします。
- 赤ボタン(計測/電源)を押します。
- 計測を開始し、回路番号表示がグルグルと回って経路探索信号を検出します。
- 計測を終了すると、「ピッ!」とブザーが鳴り受信レベルと回路番号(LEDに「1-」)を表示します。
- 同様に2番目3番目の電線を計測。計測を終了するとLEDに回路番号(「2-」「3-」)を表示します。送信機が接続された分岐であれば受信レベルが強く表示されます。送信機が接続されていない分岐では弱く表示されます。(受信レベルは5段階で表示されます。)
- 同一フィーダー(ブレーカー2次側の電線3本)ですべての電線を計測した後、緑ボタン(登録/呼出)を押して、計測値を登録します。LED表示は「01」となります。(分岐回路番号登録)
- 同様に同一バンクの全フィーダー(ブレーカー2次側の電線3本)の計測を行い登録します。
- すべての計測が終了したら、緑ボタン(登録/呼出)を押すことで、登録された中から最も受信レベルが強かった分岐回路番号とその受信レベル、また二番目、三番目に受信レベルの強かった分岐回路番号とその受信レベルを表示します。(回路の特定)



型式	ECB00	
ご注文品番	ECB00	
チェック対象電気方式	三相200V、単相100/200V、単相100V	
経路探索回路数	最大99フィーダー	
外形寸法 (タテ×ヨコ×フカサ)	受信機 175x70x39mm(突起部除く)	送信機 121x174x72mm(突起部除く)
質量	360g(クランプCTを含む)	645g(電源ケーブルは除く)
標準価格(円)	94,000	

専用クランプCT：電線外径最大35mmのものまでクランプ可能。定格電流600A。BANばんチェッカー受信機専用です。  
 受信機充電用ACアダプタ：付属  
 非常用電池ケース：オプション(別売) 近日発売予定

注意事項

クランプCT、受信機およびACアダプタは、BANばんチェッカー専用用品です。  
 故障の原因になりますので、受信機の端子に他の機器を接続したり使用しないでください。  
 計測対象電路が下記のような状態の場合、チェックできないことがあります。
 

- 電路にブロッキングフィルタやソリッドステートリレー(SSR)など通信を妨げるものがある場合。
- 電路に電圧が印加されていない場合。
- 電路に通信信号と近似の信号やノイズがある場合。

 受信機を充電しながらの使用はできません。  
 充電の際は、受信機の電源を切った状態で充電してください。ACアダプタを接続して充電している場合、受信機の電源は入りません。使用中にACアダプタを接続して充電しようとする、電源が切れて充電状態となります。

受信機には充電用の2次電池(ニッケル・水素蓄電池)を使用しています。充電電池の性質上、短い放電・充電を繰り返すとメモリ効果によって充電電池の性能や寿命を低下させることになります。ときどき、完全放電・充電を行ってください。  
 充電電池の交換および製品の廃棄の際は、お買い上げの販売店さままたは弊社営業所までお問い合わせください。  
 送信機の連続使用時間は約10時間です。約10時間後に自動的に信号の送信を停止します。  
 再び使用する際は、電源スイッチをOFFにしてしばらく時間を置いてから、再度ONにしてください。

情報機器 警報器 検知器 計測器 産業機器